

道

2021・3・24

通信 No 1627



スイセン

コロナ禍でほぼ1年経過した現在では、コンピュータ等での検証実験結果が発表され最新の知見に基づくガイドラインが出てきております。コロナ発祥当初はわからなかったことも多くあり対応も様々でした。

合唱団「道」では、「東混マスク」を当初提案いたしました。しかし現在示されているガイドラインに照らし合わせると、対応としては不十分であると思われれます。淵団長より下記のような提案がありました。

安全で安心な合唱活動再開の為、団員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(朝倉きみ子)

『やっと緊急事態宣言が解除され、合唱練習が再開できることになりました。嬉しいことですね。』

ただ、ウイルスの変異株問題もあり、リバウンドが懸念されております。また、3月末までは「不要不急の外出自粛要請」も残っており、合唱団「道」としても気の緩みには警戒が必要でしょう。

感染防止対策のひとつとして、マスク着用の重要性がクローズアップされております。緊急事態宣言直前の昨年12月に文部科学省から全国の学校宛てに出された文書「合唱等を行う場面での感染症対策の徹底について」では「合唱にあたっては正しいマスクの着用(鼻と口の両方を隙間が無いように覆った)が必要。マウスシールドや下部の開放が広いマスクなど、隙間のある形状のものは該当しない」と記述されており、全日本合唱連盟のホームページでもこの文書が引用されております。

私としては上記のようなガイドラインが存在する限りはこれに従うべきだと考えます。合唱団「道」でも感染防止のためにも合唱練習時のマスク着用ルール厳格化を導入しませんか。マスクの素材は不織布でもコットンでもウレタンでも OK のようです。フェイスシールド、マウスシールド、ネックゲイター、バンダナ、ハンカチの類は開放部が多いため不可です。とにかく鼻と口の両方を塞ぐことが重要のようです。 淵真澄 』

リレーエッセイ 《皆さんお元気ですか?》

私自身は元気ですが、皆さんと練習が出来ず残念です。

気がつけば合唱団「道」に入団してもう30年。長い年月が過ぎていました。

この間には結婚、娘の誕生、孫の誕生 50周年コンサート色々ありましたが、合唱団「道」はいつも私の心の中にありました。皆さんにお世話になりながら、歌う事の楽しさや演奏会での感動も数知れず共に過ごしてきました。

今日コロナ禍になり、一緒に歌えなくなるなんて思いもしませんでした。しかしコロナは必ず終息は来ると思います。そして皆さんとまた一緒に歌いたいと思います。

テノール 早坂勝彦

◆お知らせ◆

①活動休止中(1~2月)の団費袋を受付に用意しました。入金し担当に提出ください

②本日アンケート配布します。記入の上、当日加藤さん迄提出ください

◆次回の練習◆ 3月31日(水)午後6時10分~ 8時10分 中山先生・小坂先生
全員参加 吉野町市民プラザホール 3部の楽譜をお持ちください。